

最大限の感謝を

小牧市立北里中学校

私は中学校に入ってからジュニア奉仕団に入団しました。そこでの経験は私の持っている世界を広げるきっかけとなりました。

私の所属する北里中学校ジュニア奉仕団は学年を超えた活動が活発な所です。活動班には先輩も後輩も同級生もいて、入ったばかりの頃の私はほとんど会ったこともない先輩たちと一緒に活動するということに馴染むことが出来るのか不安も多く、同級生同士で関わることが多かったです。けれど、先輩たちは気さくな方が多く、積極的に話しかけてくれることもあって、私は段々と同級生だけでなく先輩たちとも交流が出来る様になっていきました。

2年生から私は本部員として活動していましたが、本部の中でも学年を超えた関わり、助け合いが多く、私にとってジュニア奉仕団は学年関係なく先輩後輩と関わりあえる、委員会や部活動と並ぶ大切なものになりました。

花植え・清掃活動では、サポート役として色々な班を見て回りますが、お互いに助け合い、頼りあい、笑いあっている姿を見るのは私にとって一番好きな場面の一つです。一生懸命に活動に取り組んでいる姿や、入ってきたばかりの1年生をサポートしている2、3年生の姿は自分が昔右も左も分からなかった頃に助け、支えてもらった時の事を思い出します。

募金活動の際も店先に立って声掛けを主として活動しますが、募金に参加してくれる人が「頑張ってね」などのあたたかい言葉をかけてくださる時、私はやっていて良かったなと思います。募金活動以外でも誰かから感謝されるということは、誰かのために活動している私たちにとってとても嬉しいことです。

私はジュニア奉仕団に入ってから更に意識するようになったことが2つあります。それは北里中ジュニア奉仕団が特に大切にしたいと掲げている「挨拶」と「清掃」です。この団体は奉仕の精神を通じて人と人との関わりあえる姿を目標としています。挨拶は、その関わりにとても大きな役割を果たしてくれると思います。言葉がなければ人ととの間に関わりは生まれません。挨拶は人同士が関わりあう時に最も簡単で、最も確実性のあるものだと私は思います。あの子に話しかけたい、仲良くなりたい。そう思った時、流行りの物や天気の話や自己紹介をするのも良いと思いますが、私はただ一言「おはよう」「よろしくね」というだけで十分だと思います。その一言を言えるか言えないか、その勇気があるかないかで交流の幅はぐんと変わります。清掃もそうです。私はこんな話を聞いたことがあります。「ある吹奏楽の強い高校が学校などに演奏をしに行く時、毎回自分たちが使った所をすべて綺麗に掃除してから帰っていくんです」「立つ鳥跡を濁さず」ということわざがあります。清掃は、自分たちの使う場所を清潔に綺麗にしようとする目的も含まれていると思いますが、私にとって清掃は感謝の表れだとも思います。自分たちが使わせてもらった所に最大限の感謝と敬意を払う行為。それが清掃だと思います。

小学校の頃、私はこういう事について自分から考える事はありませんでした。このジュニア奉仕団は、私が新しいことに興味を持ち、考えるきっかけを沢山くれました。奉仕の精神は人から人へと輪の様に繋いでいきます。私は先輩や先生など色々な人からそれを教えてもらいました。私が憧れ目標としてきた先輩たちの姿は今も鮮明に私の記憶に残っています。私がこの中学校で、ジュニア奉仕団員として活動できるのはあと1年もありません。この1年、私は沢山の人から学んだことを皆に伝え、私に考えるきっかけを与え、活動させてくれたこのジュニア奉仕団に最大限の感謝が出来る様に一つ一つの活動に全力で取り組んでいきたいです。